

警戒緩めぬ慎重派

野田佳彦首相は、環太平洋経済連携協定（TPP）交渉への対応方針の決定を11日に持ち越した。突如生まれた1日の猶予。慎重論への配慮か、さらに踏み込むための対策を練るのか――。先送りが報じられると、各方面に動揺が走った。

（1面参照）

11日の首相会見に向け
て、石山敬貴氏は「TPP
Pにメリットはない。誤
った判断はしないでほしい
い」と望む。山岡達丸氏
 は「熟慮し、前のめりではない発言をされると信じている」と話す。

一方、推進派の同党議員からも「党PTや慎重派に配慮した結果の対応」「2晩置けば推進と言いつらくなる」といった声が出る。だが「交渉参加の表明という基本的な意思は変わらないはずだ」との見方が多い。

「問責決議を出せ」。自

民党は午後5時30分から総合農政・貿易調査会と「TPP参加の即時撤回を求める会」の合同会議を開いた。当初は、首相が交渉参加を表明した場合に備え、抗議声明を決める予定だった。だが首相の方針決定見送りを受け、一気に政権を揺さぶる勢いに包まれた。

「本気で交渉参加を阻止するなら、党を挙げてやらないとだめだ。総裁を呼べ！」。駆け付けた大島理森副総裁が「総裁や幹事長と十分に話し合っただけで決めた」と述べてようやく収まったものの、終始緊迫した雰囲気にも包まれた。



首相のTPPに関する会見延期を受けて会合を開き、終了後に会見する山田前農相（左から2人目）らTPPを慎重に考える会のメンバー（10日、東京・永田町で）

「え、明日ですか？」 ロジエクトチーム（PT）が9日深夜にまとめた提言を、首相に念押しする戦略を練るためだ。同PTの提言は、情報提供や国民的議論が十分とする党内の強い慎重論を受け、政府に「慎重に判断」するよう求めている。だが「言いぶりを工夫し、事実上の交渉参加に持ち込む可能性がある」（同会の議員）として警戒を強め、「参加表明すれば離党する」と決断する議員もいた。

午後4時半過ぎ。「延期」の一報が伝えられても、山田会長は記者団に「議院内閣制で党の提言を考えれば、交渉参加は

絶対できない。何としても阻止したい」と述べ、警戒を緩めなかった。同会は再度の役員会を開いて対応を協議した。

同党内の受け止めはさまざま。玉木雄一郎氏は「提言内容を重く受け止めた結果ではないか」と推察するが、小平忠正氏は「予断を許さない状況が続くことに変わりはない」と指摘する。「党内200人以上の反対を踏まえ、参加見送りを表明すべきだ」（小山展弘氏）など、首相に「2晩、党の提言をかみみしめてもらおう」（梶原康弘氏）

「夕方までが勝負だ」。民主党議員らでつくる「TPPを慎重に考える会」（山田正彦会長）は午前中から役員会を開いていた。交渉参加阻止に向け、民主党の経済連携プ

各方面に動揺走る

「夕方までが勝負だ」。民主党議員らでつくる「TPPを慎重に考える会」（山田正彦会長）は午前中から役員会を開いていた。交渉参加阻止に向け、民主党の経済連携プ

「いろいろな議論すること判断する」ということではないか」と述べるにとどめた。